

平成31年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画
(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造性に富み、心豊かな、たくましい人間の育成を図る。 ・地域に根ざし、地域に愛される「地域の高校」を目指し、学力の向上と調和のとれた人格の形成を図る。 <p>1 学力の向上と希望進路の確保</p> <p>2 健康で安全な学校生活の維持</p> <p>3 学校行事の充実と発展</p> <p>4 部活動の推進と充実</p> <p>5 読書活動の推進</p>	<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域や小・中学校に対して連携の充実に向けた取組の実践 2 各種大会 (専門学科) での成果発表 3 自主活動の充実 4 本校ウェブサイトなど充実した広報活動 5 図書活動の充実 <p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 進路実現に向けてさらなる支援体制の充実 2 人権侵害の未然防止のための組織的連携 3 部活動の充実と計画的な学習活動の両立に向けた工夫 4 女子生徒の部活動加入の充実 	<p>1 特色ある学校づくりの推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) TAFS 事業の充実と、国際的科学者・技術者の育成の充実 (2) 普通科研究コース KRP (桂リサーチプロジェクト) の取組の充実と他教科への連携 (3) 特色ある部活動と全校的な取組によるボランティア活動の充実 <p>2 学力の向上と進路希望の実現</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 新学習指導要領に基づく、各教科における学力向上を図る取組の充実 (2) 希望進路実現のために進路意識の向上と主体的・計画的な取組 (3) 教育課程の成果と課題 (4) 生徒一人ひとりの進路実現に向けた組織的な取組 <p>3 生徒指導の徹底</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 規範意識の向上と基本的な生活習慣を確立する。 (2) 自他の生命や人権の尊重を基盤に正しい判断力と実践力を育成する。 (3) 生徒会活動、部活動等、積極的に自主活動を支え、より一層活気ある校風を樹立する。 <p>4 人権教育及び道徳教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人権教育を推進し人権尊重の精神を養うとともに行動力を育成する。 (2) 生徒一人ひとりに応じた支援及び指導体制を確立する。 <p>5 教育相談及び特別支援教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒を支援し、自立を促す教育を充実させる。 (2) 特別支援教育についての取組を充実させ、認識を深めて正確に理解し実践力につなげる。

平成31年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価		成果と課題
組織・運営	◇各種会議の組織体制を整備し、各分掌の機能を活性化する。	◆各分掌部長は学校運営にあたって、校長の経営方針をよく理解し、本校の教育活動全般の活性化に向けて分掌を組織的に導き、活力ある学校運営を行う。	1	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校長の指導の下、組織的な学校経営において改善がみられた。来年度はさらに改革を進めていきたい。 ・専門学科においては、近隣の小中学校との連携を進め、地域から一定の信頼を得ることができた。今後は中学生や保護者等に本校の教育内容とその魅力を如何に伝えるかが課題である。 ・探究活動推進会議を中心に、教科主任会議等の諸会議と連携することで、特に文理コースにおける総合的な探究の時間を本格的に進める準備ができた。
	◇地域の信頼を高める学校づくりを行う。	◆小・中学校との連携をさらに深めるため、公開授業や出前授業を実施する。	2	A		
	◇令和2年度入学者選抜の改善に向け学校の特色化を図る。	◆選抜方法の工夫・改善を行い、本校が求める生徒の募集につなげる。	3	B	B	
	◇新学習指導要領の先行実施を組織的に遂行する。	◆教科主任会議をはじめ、各種会議等を組織的に連動させ、探究活動等を推進する。	4	B	B	
		◆平成31年度入学生の教育課程の効果的な実施と令和2年度以降の入学生の教育課程編成等について組織的に取り組む。	5	B		
学習指導	◇「よりよい授業」構築のため、教科指導力を向上させ、生徒の学力充実に繋げる。	◆公開・研究授業週間を年2回実施し、授業アンケートの結果等も踏まえて、教員全員が授業力の向上のため研鑽する。 ◆授業規律の確立について、全教職員が共通の意識を持ち一致した指導を行うことによって、生徒が集団として学習意欲を持って授業に取り組める基礎を作る。	6	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを実施し、授業改善に向けての材料とすることができた。公開・研究授業週間は、各教科で研究授業が実施されたが、教科の全教員が参観できない状況があり、教科指導の改善等の情報共有ができていない教科もある。 ・授業規律について、年度当初に全教職員が一致した指導ができるよう注意を促した。 ・学力向上と希望進路の実現に向けての情報共有を組織的に取り組む仕組みづくりが今後の課題である。 ・科目選択については、学年団の協力も得て混乱なく実施できた。個別の生徒とのやりとりも正確に進めることができた。 ・土曜授業については、一定の成果は得たものの、生徒の公欠や教員の出張が多い日が出るなど、学力を向上させる取組としては課題が残った。 ・担任と協力し、学習強化週間を実施することができた。考査前に限らず、日常的に学習に取り組ませることが課題である。 ・年間の進路行事はほぼ予定通り実施できたが、教科指導との連携には課題が残る。
	◇希望進路の実現につながるよう学力を向上させる。	◆各分掌や各教科において生徒の学力の向上と希望進路の実現に向けて創意工夫を重ねるとともに情報を共有し組織的に取り組む。	7	B		
		◆科目選択を適切に行えるよう、担任と各分掌が生徒及び保護者に対して的確な説明をする。	8	C	B	
	◇教科に対する興味と学習意欲を高め、学力を向上させる。	◆土曜授業を2・3年生全学科において年間16回実施し、学力を向上させる。	9	B		
		◆学習強化週間（年間計10週間）を定期考査毎に実施し、自学自習・自主自律を基本とした学習習慣を身につけさせる。	10	B	B	
		◆各学年で、生徒の実態を踏まえ、進路希望に応じた行事を開催し、教科指導と連携しつつ学習意欲を高める。	11	B	B	
		12	B			

生徒指導	◇生徒指導の現状と課題について、教職員の共通理解を深め、基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	◆日常の生活指導の状況について教職員にきめ細かな連絡相談、報告を行う。 ◆生徒指導部と学年部、各分掌が連携して授業規律の確立、服装・頭髪指導、遅刻指導にあたる。	13	C	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・服装・頭髪指導、遅刻指導を年間通じて実施できたが、各分掌との相談や報告などきめ細かい連携が不十分であった。各分掌との連携や学校全体で指導を行う体制作りを来年度の重点課題としたい。 ・学園祭等、生徒自主活動の実施は一定成果がみられた。生徒の自主性を引き出すリーダー研修等実施も必要となる。 		
	◇生徒会を中心にリーダーを育成し、生徒の自主性を育む。	◆生徒会が学校生活のさまざまな面でリーダー性を発揮できるように、生徒指導部を中心に適切な指導を行う。 ◆学園祭会議を通して、文化祭や体育祭を全校生徒が自主的に取り組むような行事とする。	14	C				15	B
特別活動等	◇部活動と学習を両立させ、部活動や野外活動等で学ぶ集団行動や規範意識を生徒にわたる基礎とする。	◆部加入率を高めるだけでなく活動内容も充実させ、学校全体を活性化させる。 ◆野外活動や研修旅行の教育的意義を十分に理解させ、生涯学習の礎とする。	17	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率は女子生徒の増加に伴い若干減少している。また、学年進行に伴う若干の低下傾向と高い競技力を求めない生徒が加入できる運動部や文化系クラブの加入率と活動の質的向上が課題である。 ・野外活動はその意義や時期も定着し一定成果はみられる。昨年度の課題であったクラス替えのないクラスについても、柔軟に対応することができた。 		
			18	B					
進路指導 人権教育	◇生涯を見通した進路選択のための適切な指導と援助を行う。	◆3年間の系統的な進路指導計画を策定し、適切な時期に的確な資料・情報を提供する。	19	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・模試等のデータについては適切な時期に提供することができた。 ・文科省の入試改革頓挫の影響で一部混乱が生じた。 ・就職では一次不調者が出た。 ・年間の補習計画はほぼ予定通り実施できたが、2年生の冬期補習において不開講の講座が出た。生徒の進路意識をいかに向上させるかが課題である。 ・「いじめアンケート」実施と事後指導を担当団と協同して行えたが、来年度以降、これまでよりも丁寧な事後指導の必要性を感じている。 ・人権学習講演会や人権映画鑑賞等の実施と事後指導も行い人権意識向上を図れた。 		
	◇希望進路実現のために必要な学力の充実と向上を図る指導と援助を行う。	◆就職希望者のために説明会やガイダンス等を実施し生徒の希望の進路を実現させる。 ◆生徒の実態に即した進学補習計画（平日補習・長期休業中補習）を効率的に運用するとともに、模擬試験や実力テストを積極的に受験させ活用する。	20	B				21	B
	◇教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切に教育を推進する。	◆日常の教育活動全般をとらえて人権問題を自らの生き方の問題として捉えさせる。また、人権学習の講演や映画鑑賞を通じて自己と他者（社会）との関わりを考えさせる。特に、いじめや差別を許さない生徒の育成に努める。	22	B					
			23	B					
健康・安	◇健康・安全についての意識を高め、自律的な生活習慣を確立させる。	◆健康診断の結果を基本的な生活習慣の確立への指導に活用する。 ◆保健委員会活動を活性化し、生徒自らが健康、美化活動などに取り組むよう指導する。	23	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の未検者に対して、再検の機会を設け、受診させることができ、生徒自身の健康状態を高めることにつなげた。保健委員会は年間を通して「保健だより」作成や水質検査等の活動に真面目に取り組んだ。また文化祭展示も行った。教育相談、特別支援会議を月1回実施し、きめ細やかな情報 		
	◇教育相談を充実させる。	◆配慮や支援の必要な生徒の将来の自立を見据え、教育相談・特別支援会議を通じた情報共有を促進し、個に応じ	24	B				25	B
			25	B					

全 教 育	◇校内の環境美化を推進する。	た取組を学校全体として行う。 ◆日常の清掃活動の徹底とともに、重点的な大掃除を実施し校内美化と学習環境の整備を行う。	26	B	B	共有を行った。また各担任やスクールカウンセラー、向日が丘支援センター、まなび・生活アドバイザー等と連携し、個に応じた支援をすることに努めることができた。清掃活動は全般的に良好で、ゴミの分別も随分できるようになっており、校内美化と学習環境の整備は概ねできている。
	◇図書館資料を活用した教育活動の推進を図る。	◆図書館を利用した教科の学習や特別活動の取組を支援する。 ◆図書委員会の活動を活性化し読書への関心を高める。	27 28	A A	A A	・授業での図書館利用・図書資料利用が活発だった。司書への授業についての相談や教科への図書資料の貸出など、授業支援が充実した。 ・図書委員会は、役員を中心に自主的に発案するなど、積極的に活動した。
渉 外 ・ 広 報 ・ 事 務	◇広報活動を充実し、学校情報を迅速に提供する。	◆ウェブサイトを迅速に更新し、広報誌「桂だより」を地域に回覧するなど、本校の教育活動への関心を高め、理解を促す。	29	A	A	・ホームページを常に更新するだけでなく、桂ブログ、専門学科ブログ、京野菜ブログ、KRPブログも頻繁に更新し、本校の日々の状況を広報することができた。 ・学校公開等を通じて、本校の教育方針等を中学生やその関係者に十分に広報することができた。いずれも参加者は昨年度と同規模で開催することができた。また教員向け及び単独の専門学科説明会も好評を得て詳しい情報を関係者に提供することができた。広報活動の結果、普通科においては本校希望者数を一定ライン確保することができたが、専門学科では課題が残った。来年度はさらに一歩踏み込んだ関係作りを中学校と構築したい。 ・安心安全な教育環境の整備や来校者の印象向上に向けた施設設備について、重点的に取り組むことができた。現状に慣らされず、常に危機意識を持って、今後も施設設備を府民目線で観察し、点検整備に取り組む必要がある取り組みがある。
	◇積極的な生徒募集、本校への志願者の増加の取組を実施する。	◆学校公開・説明会、部活動見学、公立学校合同説明会などを通じて、中学生・保護者に本校の学校経営の重点や今後の方向性などを十分に伝え、本校への志願者を増やす。 ◆保護者・PTA・学校評議員・学校評価委員との連携を強化し外部評価を積極的に取り入れ、学校改善に生かす。	30 31	B B	B B	
	◇学校施設を整備・改修し、また広報活動を行う。	◆本校教育活動の円滑な推進と、生徒の安心・安全な教育活動の推進及び来校者の印象向上に向けて施設設備を絶えず点検整備するとともに、施設内の広報板等を活用し地域住民や来校者に広報活動を行う。	32	B	B	
	◇農業・環境のスペシャリスト育成を目指し研究開発に取り組む。	◆これまでの成果と課題を踏まえて、さらに深化させた探究活動を実施し 研究成果を大会等において積極的に参加することにより、生徒の課題設定能力、論理的思考力、コミュニケーション能力を育む教育課程を展開する。	33	A	A	
研 究 ・ 開 発	◇専門科目の授業、教科指導の充実・発展に取り組む。	◆TAFS(Training in Agriculture for Future Specialists) 専門学科の教科指導、総合実習、農業クラブ活動を通し	34	B	B	・生徒を主体的な学びに導く課題研究授業 TAFSを中心とした教育課程を展開し、全国学校農業クラブ連盟大会意見発表最優秀賞の獲得をはじめ、各種コンテストにおいても高い評価を受けることができ、生徒の主体的な活動を通して探究心、論理的思考、プレゼンテーション能力の向上を図ることができたと考えている。

	て、専門性を高めるとともに、規範意識を養う。 ◆TAFSプログラムを核とした専門学科教育の中で主体的・対話的で深い学びを通して、社会で活躍できる生徒の育成に努める。	35	B	B	・これらをさらに高めるために、令和2年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（高等学校等における 研究開発）」の公募への申請を行った。
--	---	----	---	---	---

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生から土曜授業を実施しないのは働き方改革の一環としての流れは理解できる。一方で、学力の向上と保護者の負担への配慮も必要であろう。 ・私学との経済的負担の差が縮まっているなか、公立高校として中学生やその保護者、地域のニーズがどこにあるのかをつかむ必要がある。教育関係者への説明も大切である。 ・部活動や農場の管理では、教職員の負担はまだ大きい。国や府の施策にも注目したい。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<p>教職員が一丸となってあらゆる教育活動の推進にあたるとともに、ひとり一人の生徒に向き合いながら、個に応じた指導のさらなる充実を図る。</p> <p>【学校の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門学科の将来構想と普通科改編を踏まえた普通科の方向性の検討・明確化 ・SSHの取組成果を生かした研究活動としてのTAFS、KRPの推進 ・地域連携や地域貢献のさらなる充実と発展 <p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒を伸ばす、学力向上に向けた学校としての進路指導體制（進学補習を含む）の確立 ・生徒を伸ばすための教科間の連携強化 ・部活動生徒の活動支援と学習面の充実（学力の向上、進学保障） <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自由」な校風の中で、学校のルールやマナーを遵守し基本的な生活習慣を確立させながら、生徒個々が自覚と責任をもって自律した行動がとれるように生活指導を行うとともに、学校行事等のさらなる充実を通じて、自主的・主体的に物事を考え、創造性豊かな生徒の育成を目指す。
---------------	---